

自然休養林情報

雲と、水と、樹の地なり 「白谷雲水峡」

昭和49年に屋久島自然休養林として指定された白谷地区は、昭和46年自然観察林として開山され、当時の上屋久営林署長、寺本哲雄氏によって「白谷雲水峡」と命名されました。ここに白谷雲水峡を称える詞を紹介します。

この地、白谷は雨多く、天然の樹木、樹層をめぐって、屋久杉、樅、そのほとぼしる清水谷にいでて溪流となり、とろに静寂のよどみを造る。時に岩を喰む清流は、白玉を散らす、げにここは雲と、水と、樹の地なり、誰れ言うとな、**「白谷雲水峡」と呼ぶ** (詞：てもとをつて)



愛子岳の麓 第三のプロット設定終了

本年二月から実施してきた愛子岳国有林の森林植生モニタリングプロット設定が終了したので、調査の結果と内容をお知らせします。

このプロットは、長期的な森林の移り変わり(遷移)を観察することで、屋久島の貴重な森林環境の保全に資することを目的に設定してきたもので、田代ヶ浜風景林の中に設定した海岸低地林の小プロットと、西部林道沿いの世界遺産地域に設定した暖帯性下位の大プロットに次いで、三箇所目の設定地になります。今回の設定箇所は、森林生態系保護地域、世界自然遺産登録地域等で、小瀬田林道沿いの愛子岳国有林二〇四う林小班、標高一五〇〜一八〇mの照葉樹林帯で、面積は〇.七HAです。

ここは、前回設定した島の西側に位置する大プロットの比較対照プロットとしての役割もあります。

調査の結果、樹種は三九種類、総本数一一七五本、平均胸高周囲長五七.五cm、生立本数の多い樹種は、モクダチ

バナ(二一〇本)、イスノキ(一六八本)、サクラツツジ(一六七本)、サカキ(八三本)、タイミンタチバナ(六五本)となっています。

また裏面に、これまでに設定したプロット三箇所のデータと設定箇所の一覧を掲載しますので、フィールド活用のご参考にして下さい。

屋久島自然休養林 保護管理協議会総会開催

自然休養林の保護管理及び運営の充実を図るために地元屋久町等関係諸団体に結成されている、平成九年度屋久島自然休養林・荒川地区保護管理協議会総会と、協力金徴収の業



自然休養林には、屋久島への三分二のが終了し、次回は一〇月頃に、今回の残り東部の照葉樹林帯を調査されるということ、調査結果が期待されます。

このように保全センターの植生プロットのデータ及びフィールドは、屋久島を調査研究される方々に広く利用していただくことにしていますので、多くの活用を期待しています。

プロット活用第一号 オオバヤドリギ調査開始

北九州市の樹木医、宇佐美陽一氏が、保全センターの森林植生大プロットを利用して、オオバヤドリギの調査を開始され、外部研究者によるフィールド利用の第一号となりました。

この木は、広範な樹種の枝上に寄生する常緑の低木で、樹体が大きく気根様の外部寄生根を有した寄生植物です。今回の調査でプロット全体

屋久島の植物



総包 (まるで白い花弁のよう)



果実(赤熟)

ヤマボウシ (ミズキ科)

高さ五〜一〇mの落葉高木で、秋田、岩手県以南に分布。白い花弁状のものは総苞片で花は中央に二五〜三五個集まってつく、名前は白い総苞片を頭巾に見立てたもので、果実は赤く熟して食べられる。今、ヤクスギランドの千年杉近くと清涼橋の側でひときわ目立って咲いている。

治山工事開始

六月三〇日の入札を経て荒川橋(ヤクスギランド)と、白谷地区のコンクリート谷止工事が七月中旬から施工される予定です。

縄文杉で森林教室

鹿児島県立青少年研修センターと上屋久町教育委員会主催の縄文杉登山(七月二五日予定)で、依頼を受けた保全センターの職員が森林教室を行います。



モニタリングプロット設置個所

プロット名	設置個所・面積	樹種構成	地域指定
暖帯性下位 (大プロット)	平瀬国有林 2い林小班 面積 4.0 ha 標高 170 ~ 270 m 西部林道沿い、半山の天然林で、 屋久島の代表的な照葉樹林帯。	樹種 57種類 総本数 7371本 主な樹種 モクタチバナ、フカノキ、サ カキ、リンゴツバキ、イスノ キ、サザンカ	森林生態系保護地域 世界自然遺産登録地域 国立公園特別保護地区
照葉樹林帯 (小プロット)	愛子岳国有林 204う林小班 面積 0.70 ha 標高 150 ~ 180 m 小瀬田林道沿いの照葉樹林帯で、 大プロットの比較対象地としての 役割がある。	樹種 39種類 総本数 1175本 主な樹種 モクタチバナ、イスノキ、サ クラツツジ、サカキ、タイミ ンタチバナ、リンゴツバキ	森林生態系保護地域 世界自然遺産登録地域 水源かん養保安林 国立公園特別保護地区 史跡名勝天然記念物
海岸低地林 (小プロット)	鍋山国有林 111り林小班 面積 0.25 ha 標高 10 ~ 20 m 田代ヶ浜風景林内、天然林ではあ るが伐採の形跡があり、現在の林 分は30年生前後とみられる。	樹種 25種類 総本数 507本 主な樹種 フカノキ、モクタチバナ、ハ ゼノキ、タブノキ、ヤマモモ クロキ、ヤブニッケイ	風景林 潮害防備保安林

調査方法及び内容

<ol style="list-style-type: none"> 調査区域は大プロット、小プロットとも10m毎に 丹頂杭で表示 樹種、胸高周囲長(15.7cm以上)を毎木調査 樹幹配置図の作成 胸高は、2林班と111林班のプロットについては 1.2m、204林班のプロットは1.3mで設定 調査木はナンバーテープで表示 定点からの写真撮影 5年ごとに調査 	<p>(丹頂杭)</p>
--	--------------

設定箇所位置図

